

前日の【講義・演習】ケアマネジメントにおける アセスメントとその教育方法の振り返り

かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク
岡西 博一

相談支援専門員の専門的能力の習得

平成 28・29 年度厚生労働科学研究「相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究」

相談支援専門員が業務を遂行するために必要な専門的能力として

「相談支援専門員にはサービス等利用計画作成を中心としたアセスメント及びプラン作成能力に加えた、他職種との連携・調整する力、チームアプローチのためのネットワーク形成力、利用者の主体性を引き出す力が必要」であることが明確となる。



厚生労働省 平成30年度障害者総合福祉推進事業「相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業」

これらの専門的な力を修得するための相談支援従事者研修の進め方を分析し、モデル研修の開発を行う。初任者研修及び現任研修ともに、「**演習による実践的な能力の修得が重要**」とされ演習プログラムが拡充された。

演習＋実習における教育方法、受講者の経験的学習

自ら発見（気づき）
気づきの定着

“「習う」から「学ぶ」“

主体的・参加型の学びへ

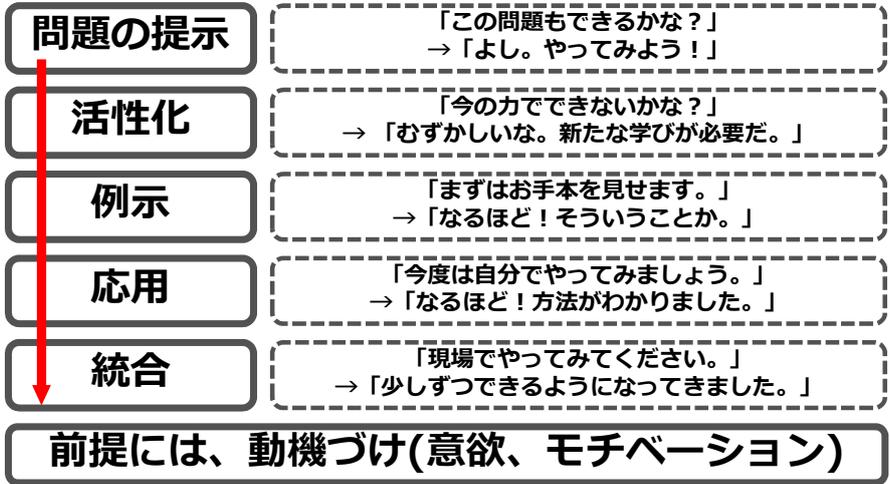


質の高い学びを提供

研修カリキュラムの見直し

- ・プログラムの拡充
- ・実習の必須化
- ・研修ツールの標準化

参考：メリルの学習環境デザイン原理

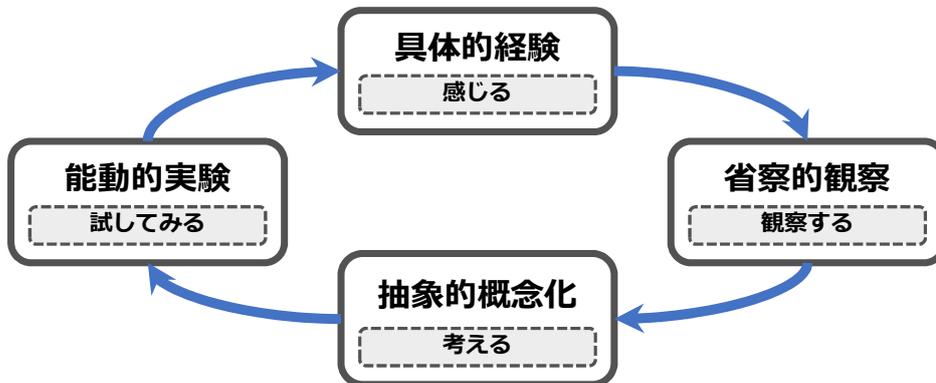


平成30年度 障害者総合福祉推進事業「相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業」
新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修)資料を引用、一部改変

演習＋実習における教育方法、受講者の経験的学習

参考：コルブの経験学習モデル

【研修】でもこのサイクルが重要
・受け身で情報(知識)を一方通行で受け取るだけでも、単に発散するだけでも効果は薄い。
【学び】全体でもこのサイクルが重要：**研修が終わってからが重要**
・研修も時に必要、現場での実践とその振り返り(スーパービジョン等)も重要。



平成30年度 障害者総合福祉推進事業「相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業」
新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修)資料を引用、一部改変

初任者研修におけるアセスメントの経験的学習

初任者研修演習1「科目のねらい」（初期相談からアセスメント）

- 基本相談支援の実際について理解する
- 受付や初期相談（インテーク）、契約の各場面で求められる実践的な技術を習得する
- 利用者の主訴を明確にし、本人・家族等からの情報収集を行う技術を習得する
- アセスメントにおいて収集した情報から、専門職としてニーズを導くための技術を習得する
- グループ討議を活用し、チームでの支援の重要性と効果、グループ討議の基礎的技術を体験的に理解する



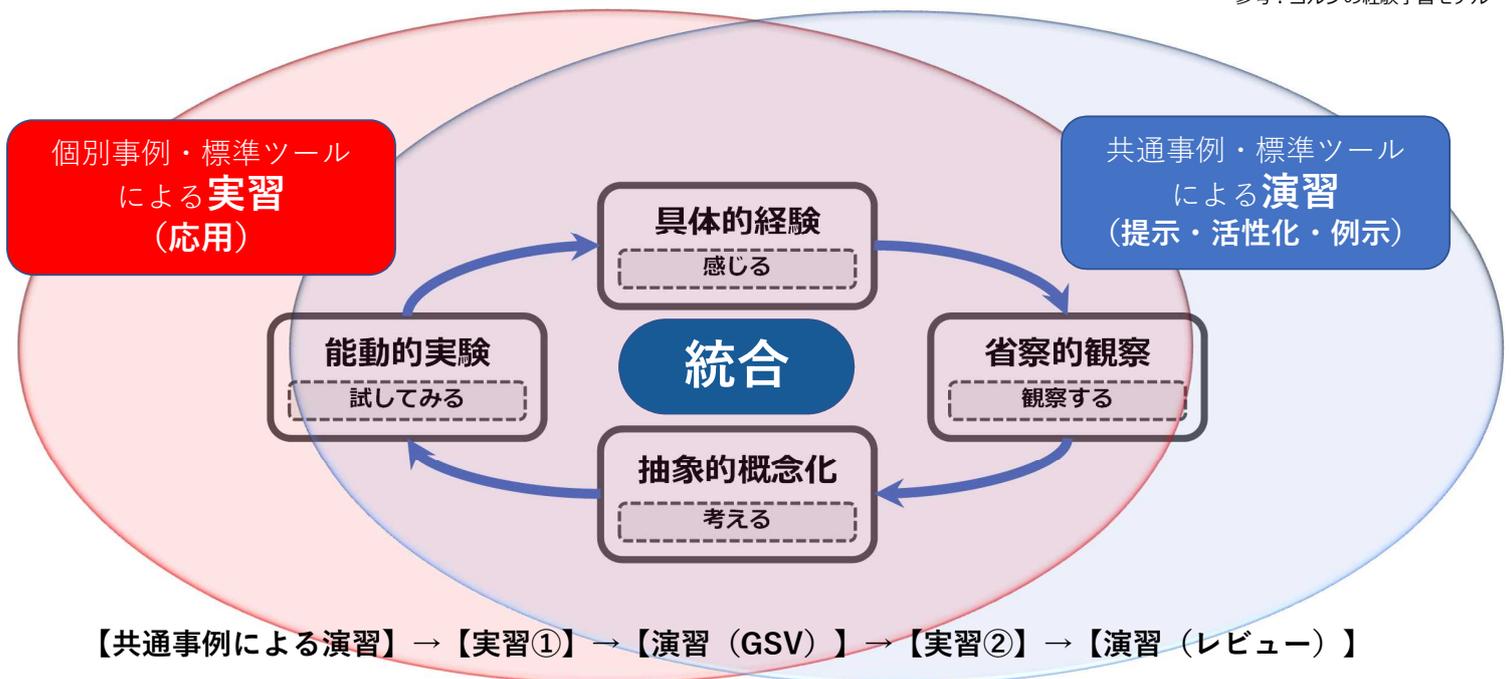
アセスメントの経験と概念化を促す為の「共通事例」と「標準ツール」の活用
(見立てと手立てを導くアセスメントの精度を高める演習(学習機会)を提供)

= 地域や講師による教育方法、受講者の学習効果のバラつきを是正した学習機会の提供

5

演習＋実習における教育方法、受講者の経験的学習

参考：コルブの経験学習モデル



6